

兵庫県消防防災航空隊

HYOGO FIRE-FIGHTER AVIATION CORPS

1. 兵庫県の紹介
2. 隊員構成
3. 隊のあゆみ
4. 保有機の機種・性能・諸元
5. 各種活動内容
6. 災害活動

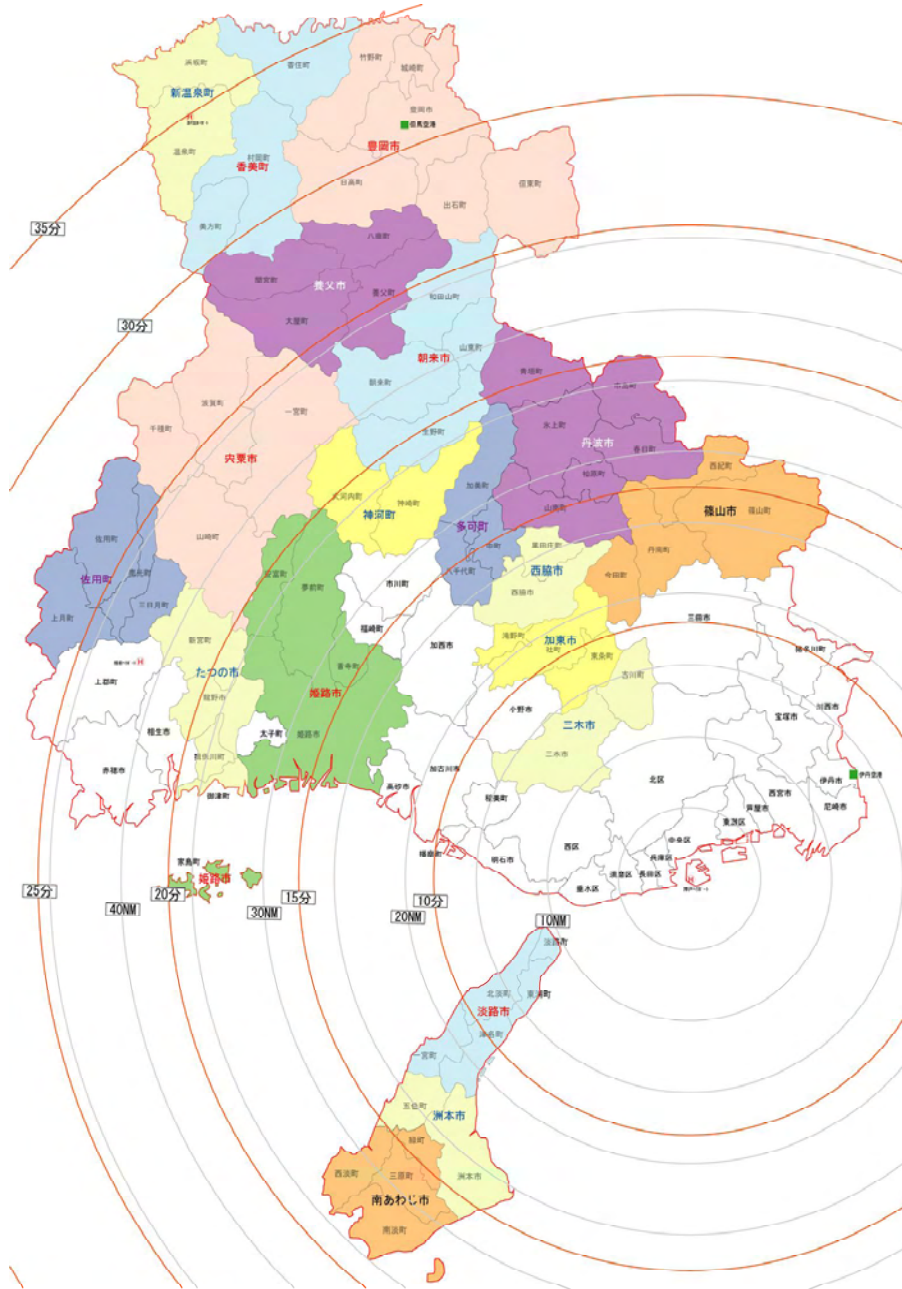


●所在地

兵庫県消防防災航空隊
神戸市航空機動隊
〒650-0046
兵庫県神戸市中央区港島中町8丁目1番
神戸ヘリポート内

1. 兵庫県の紹介

兵庫県は、県域が日本海から太平洋にまたがり、日本の縮図ともいわれるように、広大で多彩な県土を擁し、また、日本標準時子午線が通過しており、日本のヘソとなっております。



面積	8,394.92 km ²
人口(H17.4.1現在)	5,582,242人
最高地(氷ノ山)	1,510m

2. 隊員構成

機動隊長 1名

操縦士 7名

整備士 7名

航空救助隊員 11名

（神戸市隊員 4名
兵庫県下派遣隊員 7名）



3. 兵庫県消防防災航空隊のあゆみ

S55. 7. 8	防災ヘリコプター「ひょうご」ベル式222型が配備され、兵庫県警察航空隊に運行管理を委託
S63. 10. 13	防災ヘリコプター「ひょうご」川崎式 BK-117A-4 型に更新
H0. 7. 14	機体を川崎式 BK-117B-1 型に型式変更
H8. 7. 30	機体を川崎式 BK-117B-2 型に型式変更
H8. 9. 1	兵庫県下8消防本部から派遣された8名に兵庫県知事公室消防課の併任辞令を交付
H8. 9. 2	神戸市消防機動隊のもと、9月20日まで発隊前の研修指導を受ける
H8. 9. 24	大阪国際空港ターミナル仮事務所において発隊準備を開始
H8. 10. 21	兵庫県消防防災航空隊発隊
H9. 4. 1	機構改革により、兵庫県知事公室消防防災課から兵庫県知事公室消防課に所属移動される
H12. 4. 1	機構改革により、兵庫県知事公室消防課から兵庫県企画管理部防災局消防課に所属移動される
H16. 4. 1	兵庫県1機、神戸市2機所有の消防(防災)ヘリコプターの共同運航を開始 これに伴い、兵庫県消防防災航空隊事務所を大阪国際空港から神戸ヘリポートに移転
H16. 8. 1	常時2機運航のために必要な整備士を採用し、常時2機体制の本格運航を開始
H18. 3. 31	機体を川崎式 BK-117C-2 型に更新

4. 保有機の機種・性能・諸元

機 体	形 式	川崎式 BK-117 C-2型
	登 録 番 号	JA28HY
	全 長 / 全 幅 / 全 高	13.03m/11.00m/3.96m
	最 大 離 陸 重 量 (A)	3,585kg
	空 虚 重 量 (B)	2,352kg (救助ウインチ装置、地上連絡用拡声装置、隊員 降下装置、10人標準座席、機外吊り下げ装置)
	有 効 搭 載 重 量 (A - B)	1,233kg
	搭 載 燃 料 / 重 量	ジェット燃料 A-1/693kg(866ℓ)
	燃 料 消 費 量	195kg/h(244ℓ/h)
	標 準 座 席 数	10座席
	最大座席数(ハイ・デンシティ・シート設置時)	11座席
エ ン ジ ン	型 式 名	ツルボメカ・アリエル 1E2
	連 続 最 大 出 力	692shp(馬力)×2基
性 能	最 大 速 度	268km/h
	最 大 巡 航 速 度	246km/h
	最 大 航 続 時 間	3時間35分
	最 大 航 続 距 離	700km
主 要 装 備 品	救 助 用 ウ イ ン チ 装 置	電動式、最大荷重270kg、ケーブル90m
	隊 員 降 下 装 置 (ラペリング・キット)	4名が同時に下降可能
	機 外 吊 り 下 げ 装 置 (カ ー ゴ ・ フ ッ ク)	最大荷重1,500kg
	空 中 消 火 タ ン ク 装 置	タンク最大容量800ℓ
	地 上 連 絡 用 拡 声 装 置	出力200W×2基
	救 急 患 者 搬 送 用 担 架 装 置	担架1台、医療用機器・酸素ボンベ搭載可能
	G P S - M A P 装 置	DMS-90
	ヘリコプターテレビ電送システム	カメラ:Ultra8500(可視・赤外線) カメラハウジング:回転角 水平垂直360° 連続、 防振装置付き 機内設備:カメラ操作装置、カメラ制御装置 等



5. 各種活動内容

林野火災

- 1 焼損範囲、延焼状況、延焼拡大方面等の報告
- 2 撒水器による空中消火
- 3 現場最高指揮者の上空からの偵察
- 4 消防隊員の輸送、活動資機材の空輸及び現場付近に設置した簡易水槽への消火用水の空輸
- 5 写真及びビデオの撮影と事後検討資料の収集
- 6 飛び火の有無等現場周辺の警戒・監視活動の実施
- 7 登山者に対する避難誘導



救助活動

- 1 現場の特定及び状況の確認
- 2 ラペリングまたはホイスト降下による航空救助隊員の現場投入
- 3 減圧式担架、エバックハーネス等の資機材を使用しホイスト救出
- 4 地上部隊の誘導
- 5 救助資機材の空輸
- 6 潜水器具を使用しての水中検索、救出活動の実施
- 7 写真及びビデオの撮影と事後検討資料の収集

救急現場

1. 火災現場や救助現場からの負傷者の搬送
2. 緊急を要する負傷者の医療機関への搬送
3. 遠隔地の救急患者の搬送
4. 転院患者の病院間搬送
5. 医師、医療資器材の搬送

その他の活動

1. 防災パトロール
 - (ア) 災害危険箇所等調査
 - (イ) 災害予防広報
2. 訓練
 - (ア) 自隊訓練
 - (イ) 各機関との連携訓練



6. 災害活動

	災害区分								計		
	火災		救助		救急		その他				
	県内	県外 応援	県内	県外 応援	県内	県外 応援	県内	県外 応援	県内	県外 応援	合計
平成 15年	2		5		14				21		21
平成 16年	10	1	14		49		7		80	1	81
平成 17年	11	2	10		84		2		107	2	109

